

決算説明資料

2026年3月期



Listed Company 4241

2026年5月
株式会社アテクト

2026年3月期(第57期) 業績総括

全社連結業績

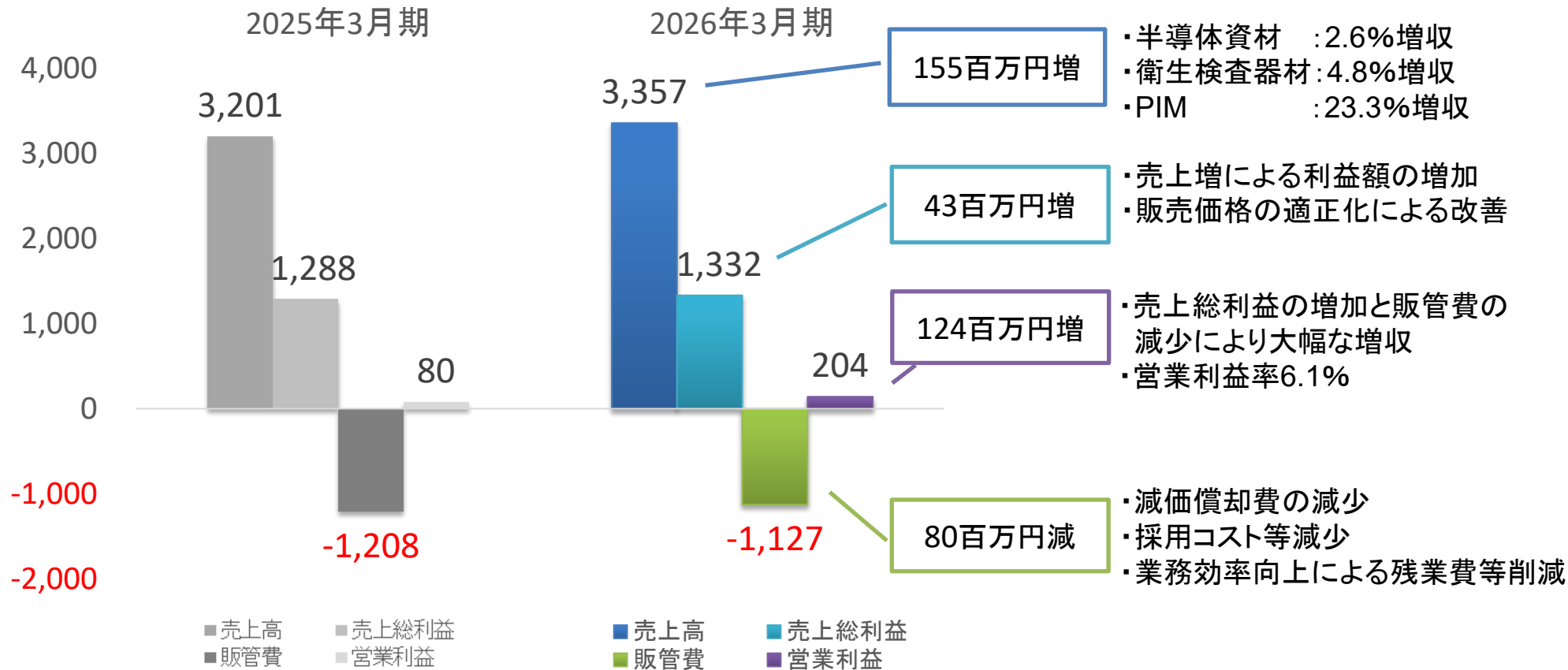
(単位:百万円)

	2025年3月期	2026年3月期	増減率
売上高	3,201	3,357	4.9%
売上総利益	1,288	1,332	3.4%
	40.2%	39.7%	
営業利益	80	204	154.0%
	2.5%	6.1%	
経常利益	64	209	223.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	40	141	252.4%

- 半導体資材、衛生検査器材、PIMの3事業ともに増収
- 衛生検査器材事業、PIM事業の売上高は創業以来過去最高を更新
- 販売価格の適正化、業務効率の改善等により営業利益は2億円超

2026年3月期収益サマリー

(単位:百万円)

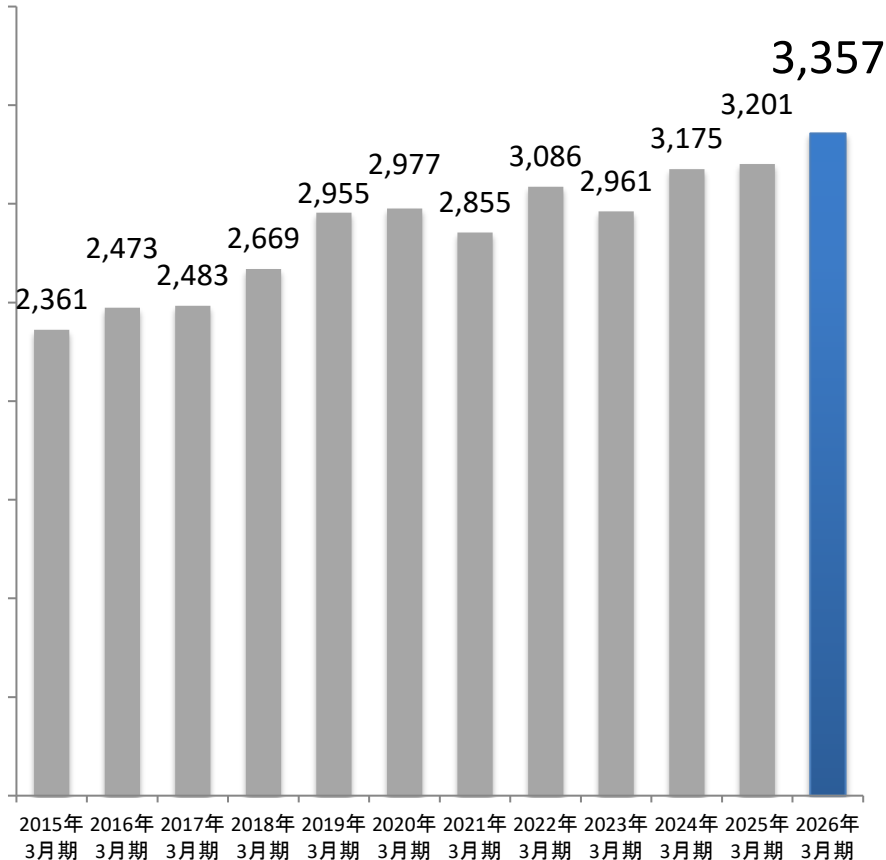


- 全3事業において増収
- 資源高や人件費の増加により原価率は悪化したが、販売価格の適正化等を進め売上総利益は43百万円増加
- 減価償却費の減少、採用コスト等減少により販管費は減少し営業利益は154.0%の増益

全社連結業績推移

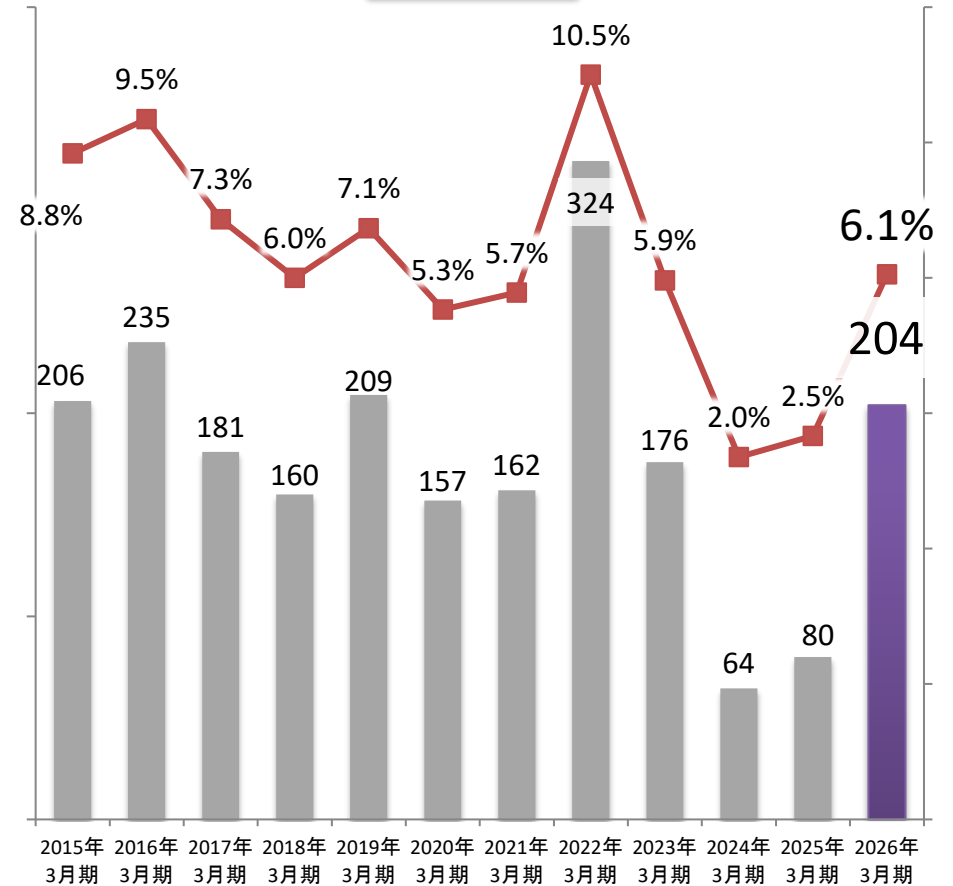
(単位:百万円)

売上高



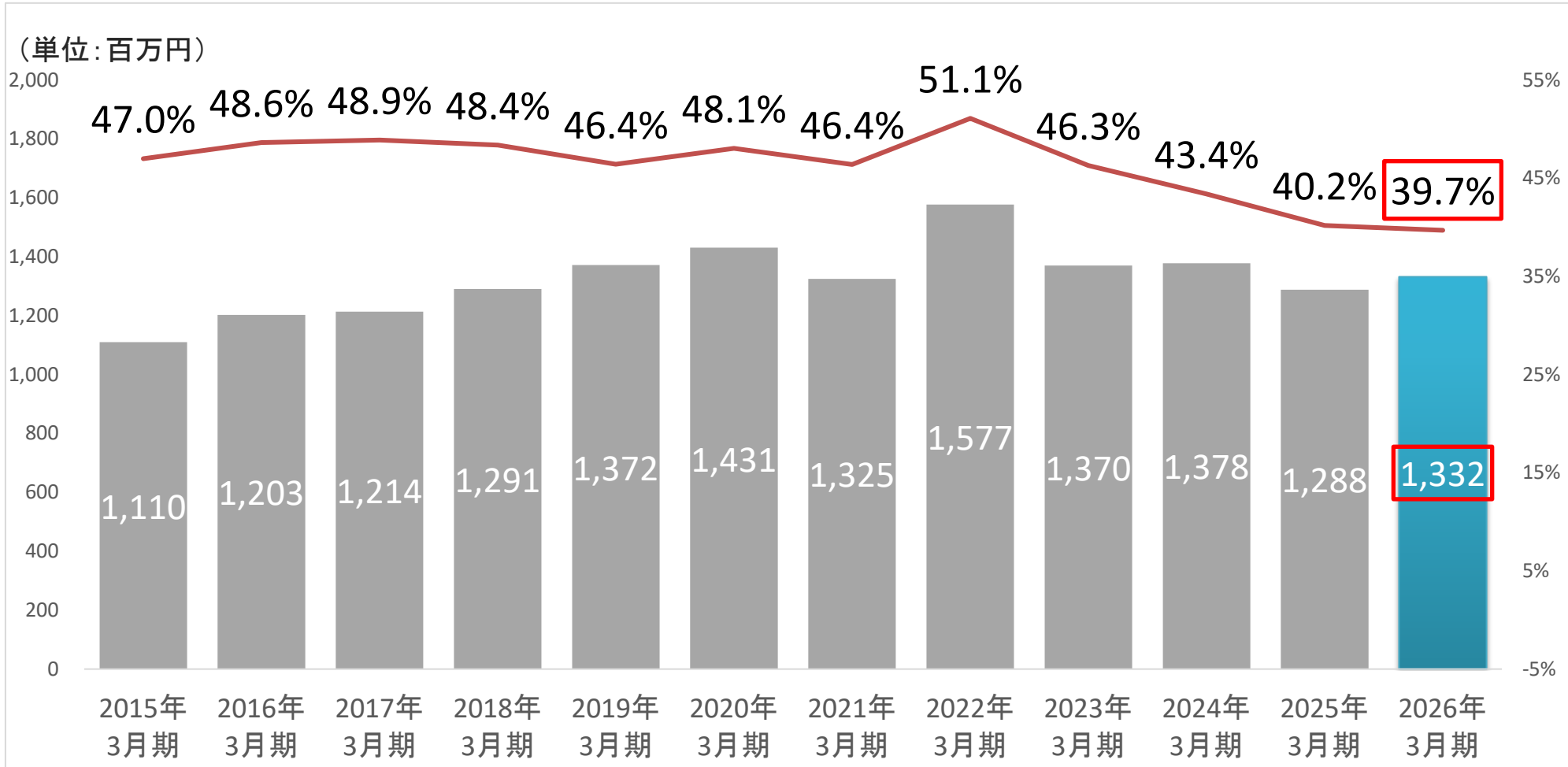
(単位:百万円)

営業利益



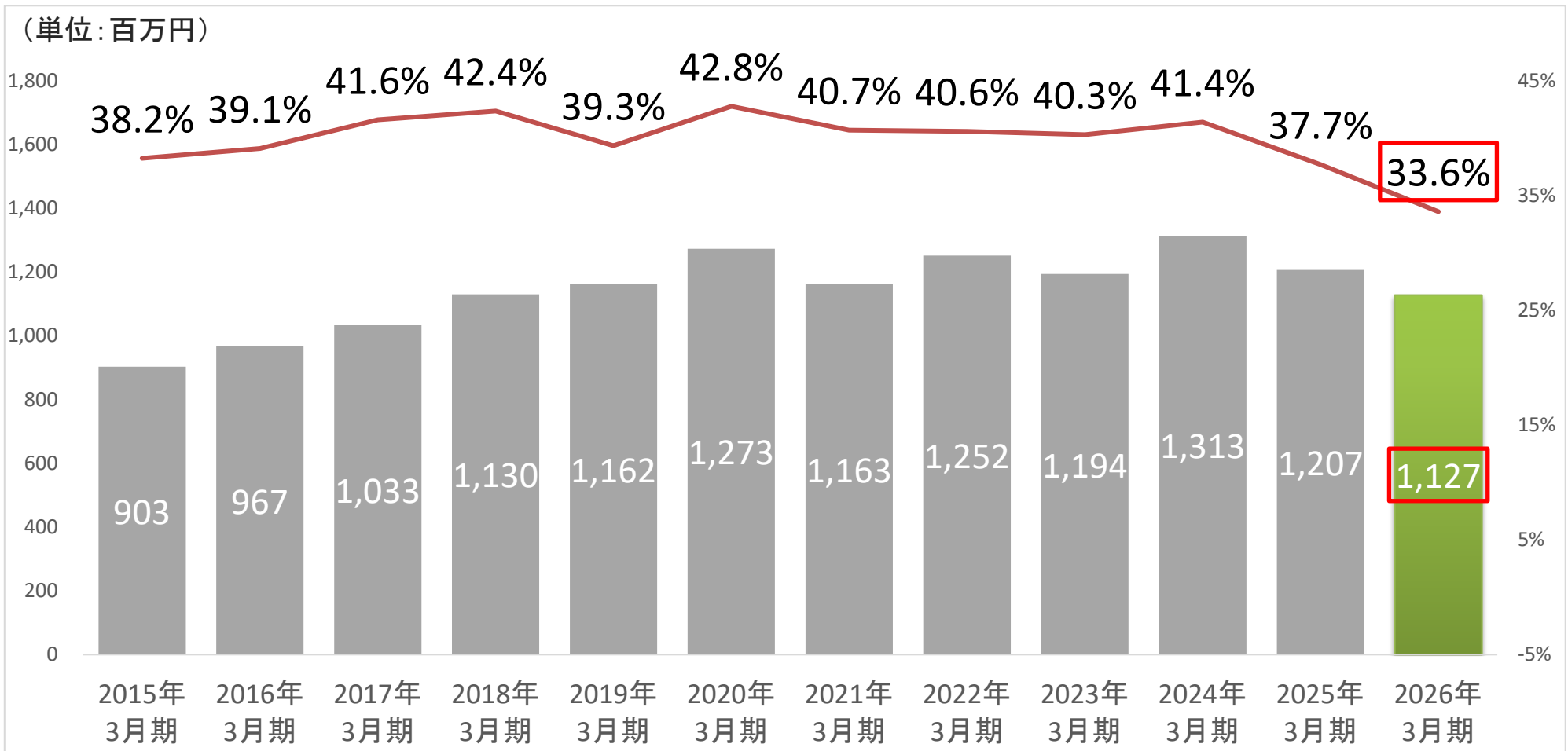
- 衛生検査器材事業とPIM事業の売上高は過去最高となり全体の売上高も高水準となった
- 営業利益についても前期の2.5倍を超える高水準での着地となった

売上総利益推移



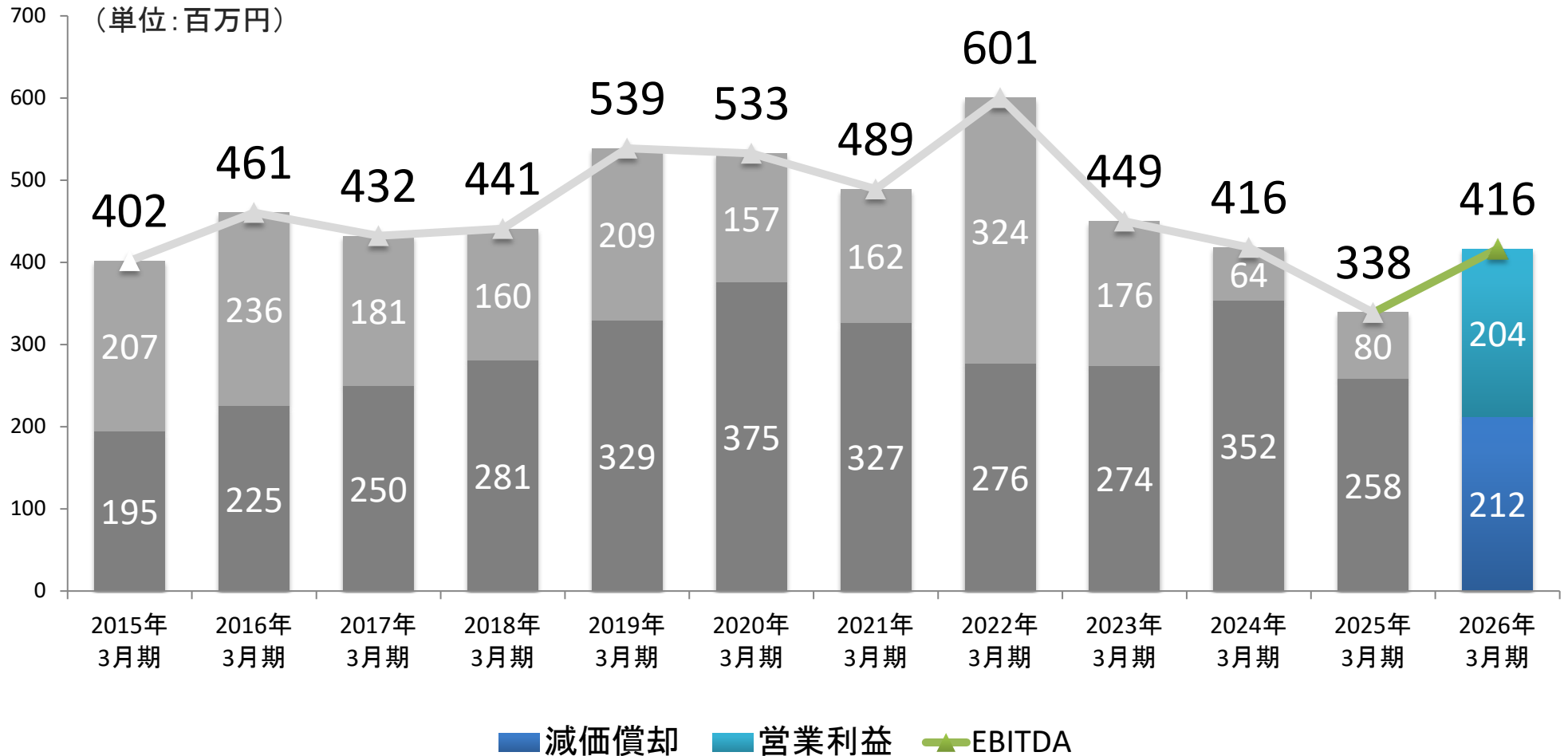
資源高や労務費の増加により原価率は悪化したが一、売上の増加と販売価格の適正化等を進めたことにより売上総利益額は増加

販売管理費推移



減価償却費や採用コストの減少、業務効率改善による残業費用の減少等により販管費は減少

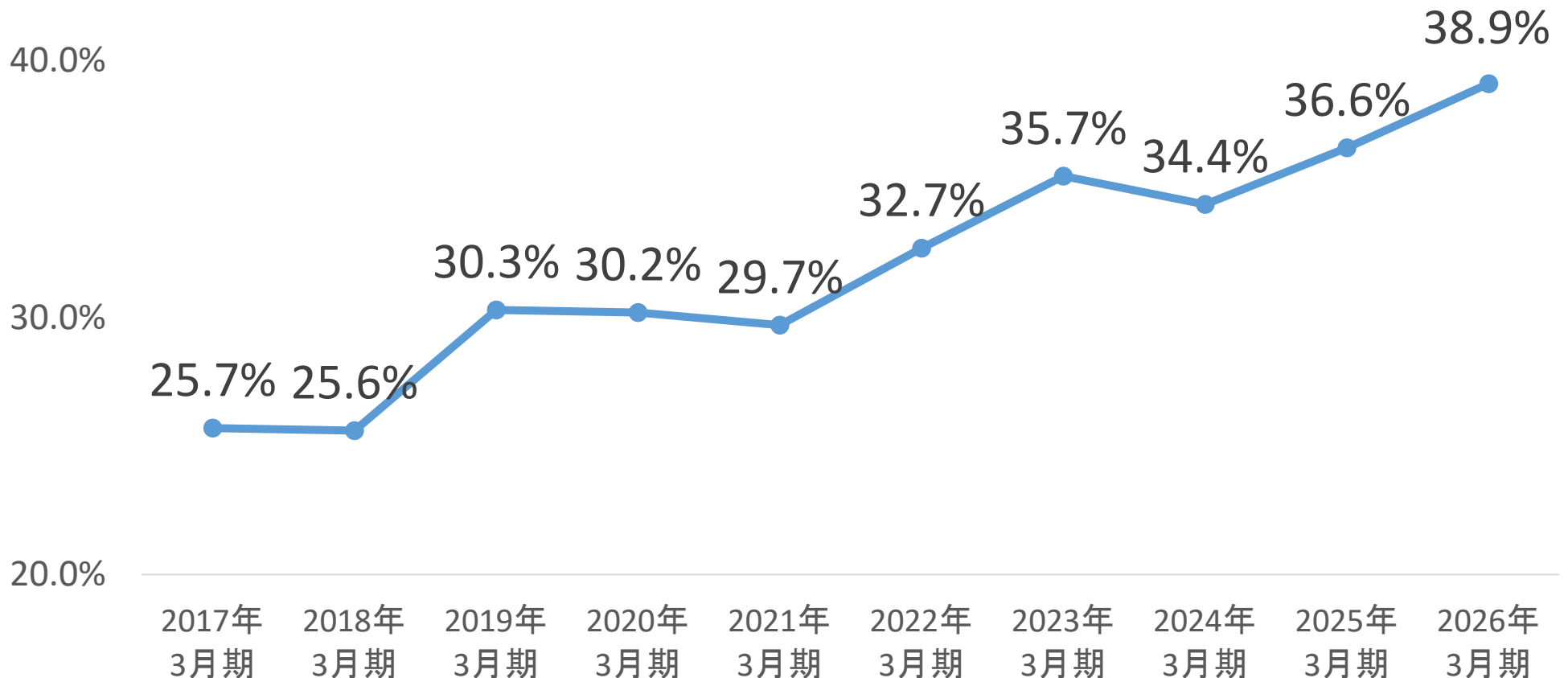
EBITDA：企業収益力



営業利益の増加によりEBITDAは2期ぶりの水準に回復

財務健全化

自己資本比率推移



2017年の滋賀本社工場移転投資以降、自己資本比率は着実に上昇

各事業の現況と今後について

1. 半導体資材

- ①第3四半期連結会計期間以降液晶パネル需要が回復し、前期比で**増収**
- ②国際的な経済状況に強い影響を受けるビジネスであるため、米国の通商政策や中東情勢等の地政学リスク等**不確定要素も多く**、動向について引き続き注視

2. 衛生検査器材

- ①インバウンド需要含め外食産業への販売は**堅調に推移**
- ②主要取引先への更なる販売促進活動、新製品提案、新規取引先開拓活動等により、**売上高は過去最高**
- ③シャーレの主原料であるPS(ポリスチレン)材価格の高止まりに伴う**販売価格の適正化を積極的に推進**
- ④昨今の中東情勢によりビジネス環境の**先行きは不透明**なため動向について引き続き注視

3. PIM

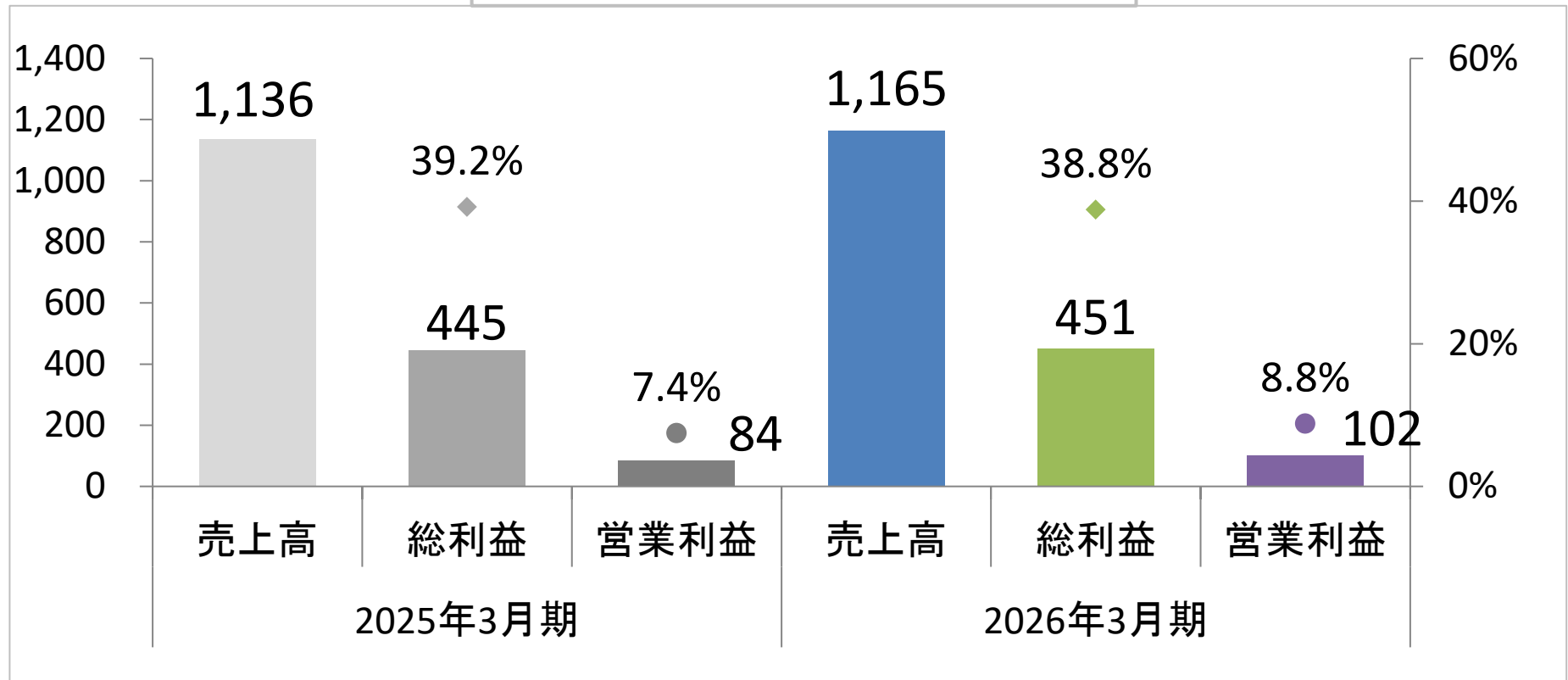
- ①自動車用ターボ部品や高機能部品の量産出荷が年間通じて堅調に推移し**売上高は過去最高**
- ②生産効率改善、品質の安定化による**収益性改善が課題**

- 各事業において**当面の生産活動に支障のない程度の主要原材料を確保できていることから**、市場動向を注視しながら戦略的な調達活動を行うことにより収益への影響を可能な限り抑制する

1. 半導体資材事業

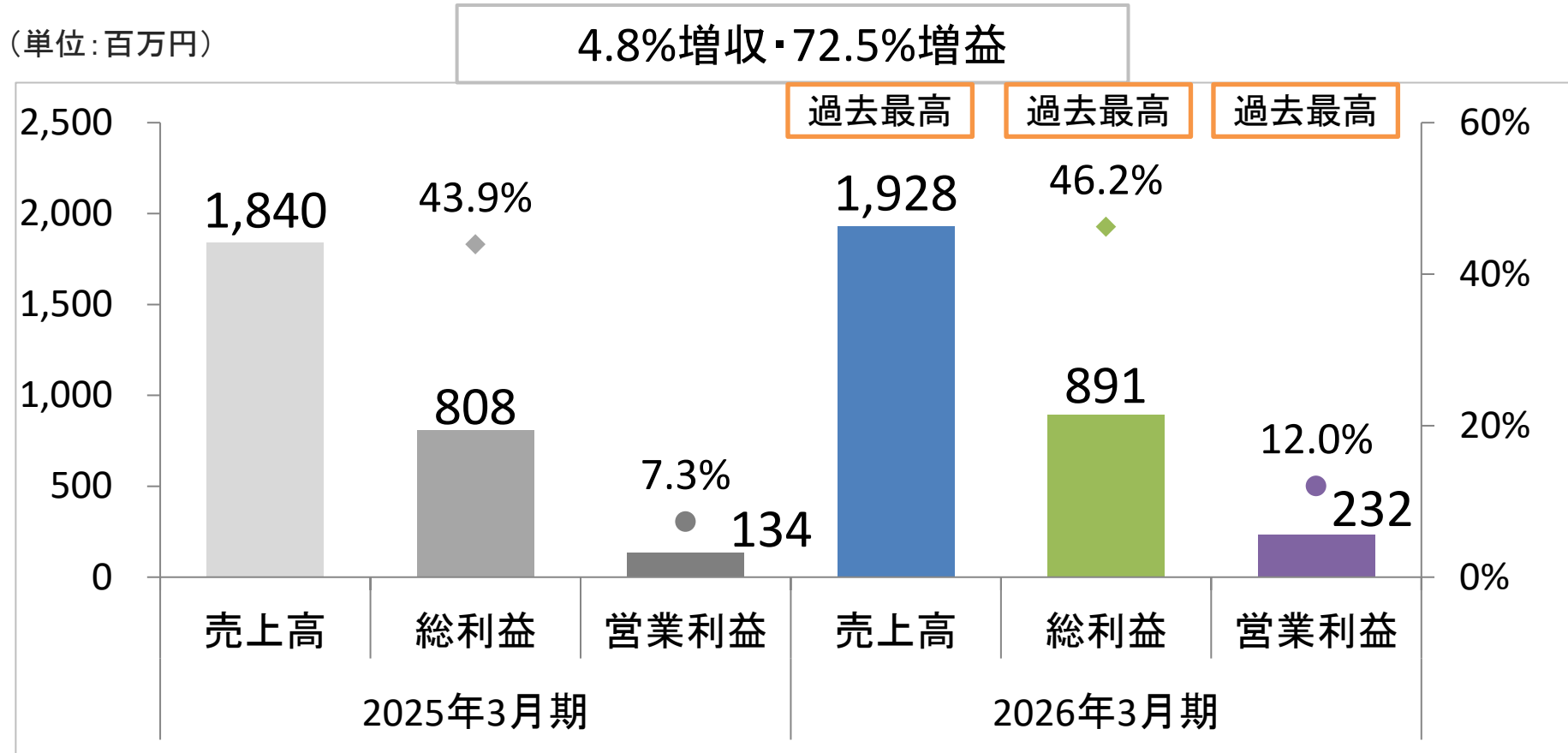
(単位:百万円)

2.6%増収・21.3%増益



- 3Q以降需要が回復し、通期販売数量は6,653万m(前期比5.9%増)
- 米国通商政策や中東情勢による影響等の動向を注視

2. 衛生検査器材事業

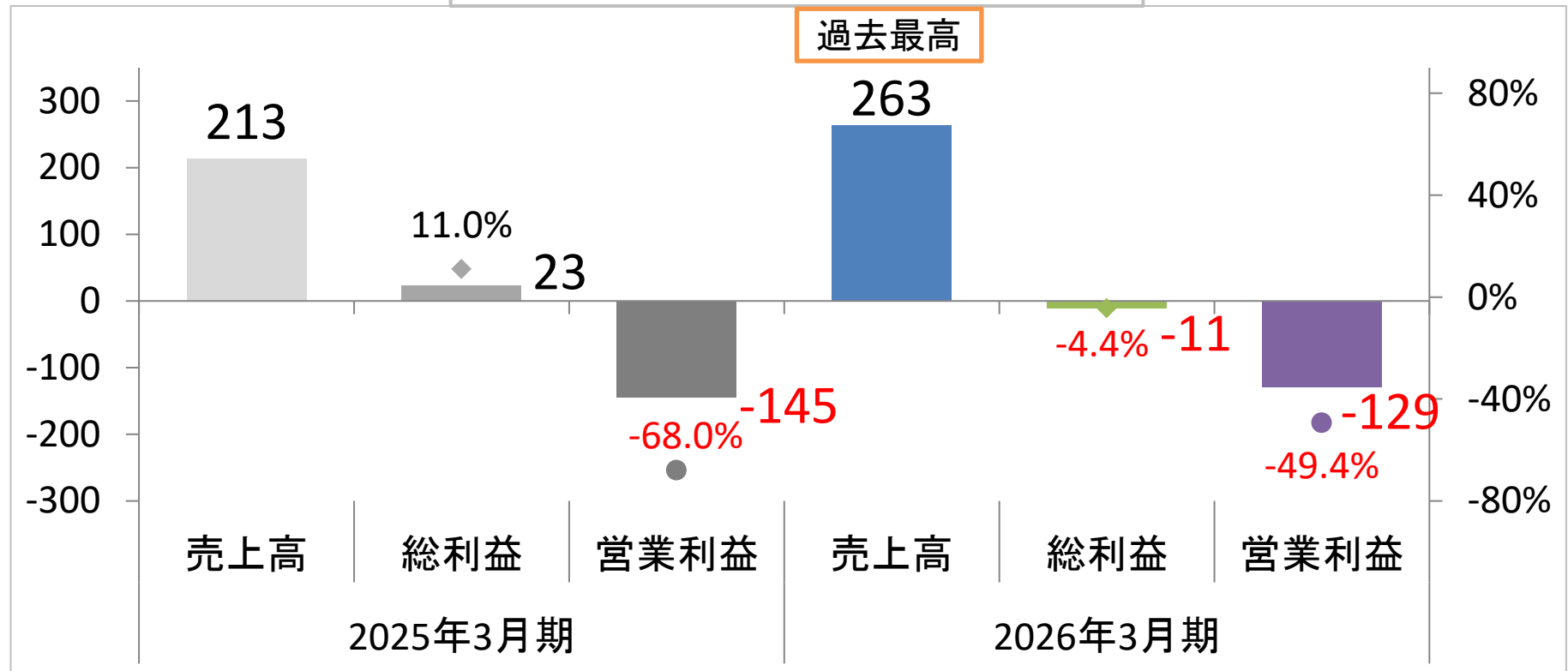


- 売上高、利益ともに過去最高を更新も、中東情勢による市場の動向は不透明
- 新製品『aS-Medium(簡易型微生物検出用培地)』は一般細菌群検出用の『AC』に続き大腸菌群検出用の『CC』の販売を開始

3. PIM事業

(単位:百万円)

23.3%増収・15百万円増益



- 自動車用ターボ部品や高機能部品の量産出荷が年間通じて堅調に推移し売上高は過去最高
- 生産効率改善、品質の安定化による収益性改善が課題

2027年3月期（第58期） 業績見通しについて

2027年3月期事業計画

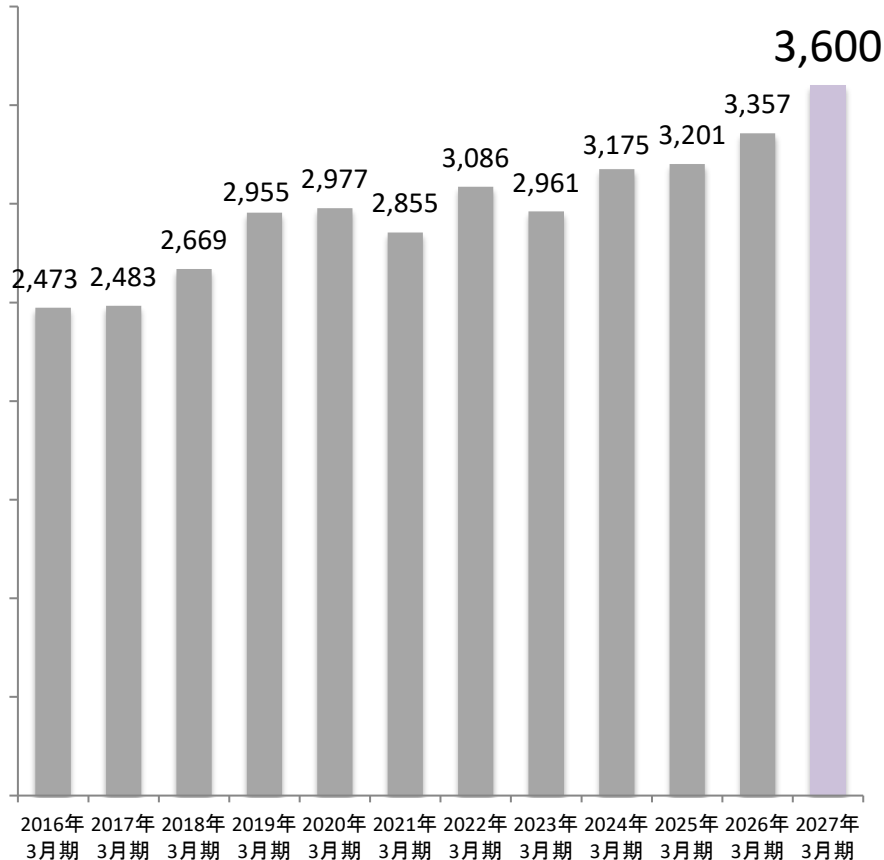
	2026年3月期	2027年3月期	増減率
売上高	3,357	3,600	7.2%
営業利益	204	210	2.5%
	6.1%	5.8%	
経常利益	209	200	-4.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	141	120	-15.3%
配当予想	10円	10円	—

- 新中期経営計画『VISION 30S』の一次年度となる2027年3月期の売上高は着実な成長を継続
- 原材料・エネルギーコスト・人件費の高騰の影響は継続する見込みであり、特に中東情勢の動向や業績への影響について注視

全社連結業績推移

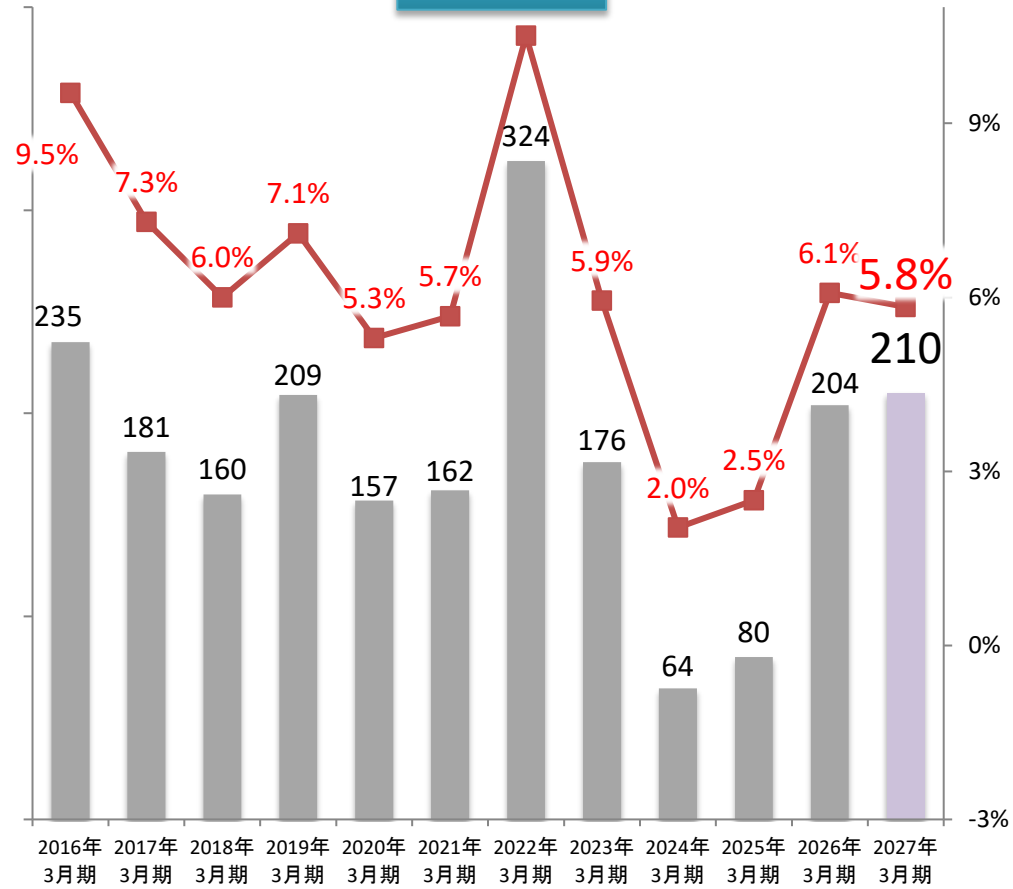
(単位:百万円)

売上高



(単位:百万円)

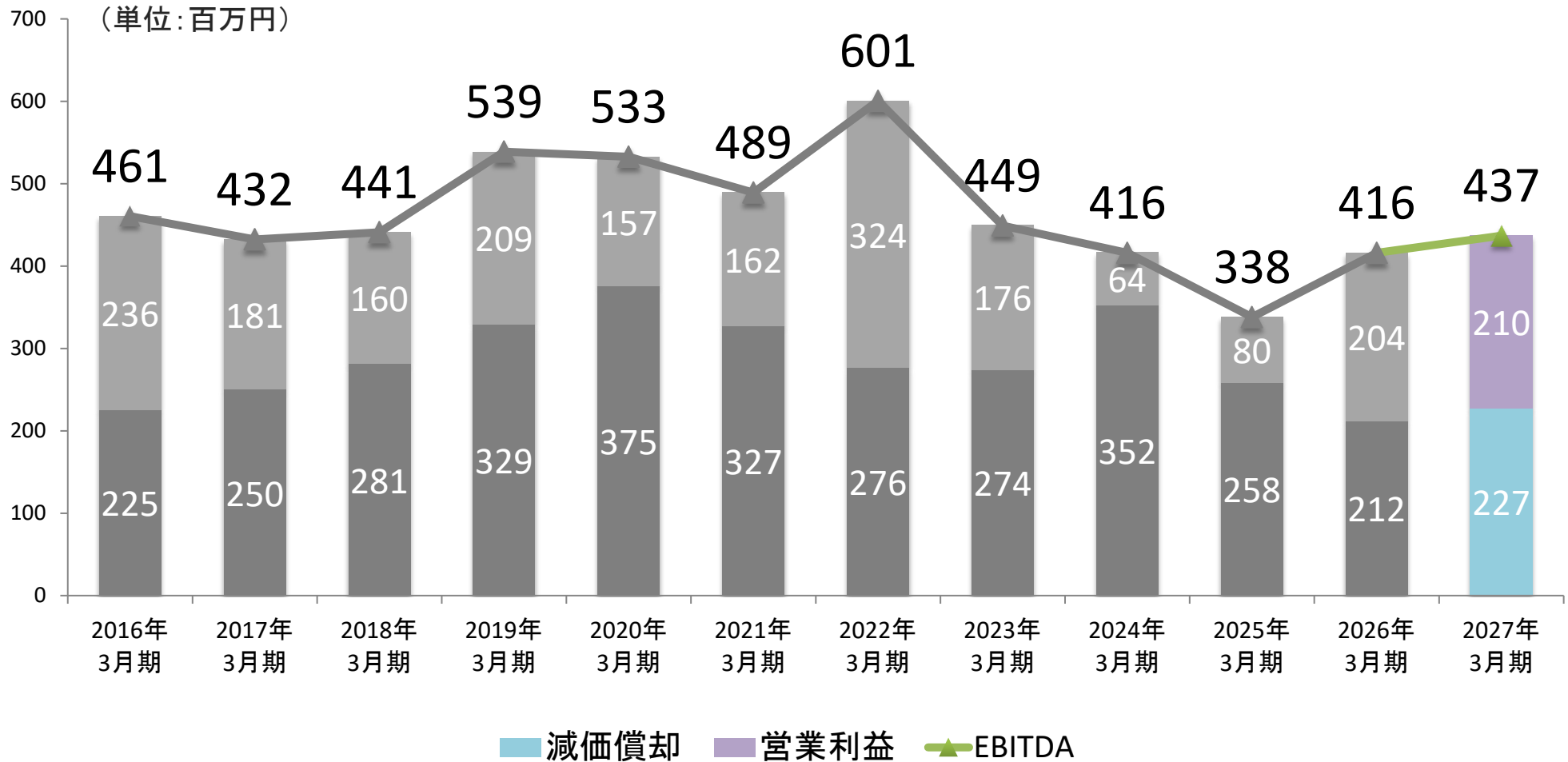
営業利益



売上高は確実な成長を目指す

中東情勢の影響により原材料・副資材価格は不透明であるものの増益を目指す

EBITDA: 企業収益力



営業利益・減価償却費の増加によりEBITDAは2期連続上昇

免責事項

当資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略などに関する情報は、当資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で行った判断に基づくものです。

しかしながら実際には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生などにより、当資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。

当社は、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めてまいります。当資料記載の業績見通しのみにより全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願いいたします。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、転送等をおこなわれぬようお願いいたします。

本資料に関するお問い合わせ

株式会社アテクト 事業管理部 IR担当

TEL: 0748-20-3400

E-mail: ir@atect.co.jp